

木材がふんだんに使われた東京2020大会選手村 交流施設「ビレッジプラザ」が公開されました



1月下旬、選手村宿泊棟の東側に建設中の選手村交流施設「東京2020大会選手村ビレッジプラザ」が公開されました。ビレッジプラザは大会期間中の選手の生活を支える選手村の代表的な施設です。公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ではオリンピック開催にあたって、環境に配慮した持続可能性への取組を進めており、ビレッジプラザにおいても、日本の伝統・文化を感じられるよう「木材を使用」することを開催都市立候補の時点から公表しています。

そこで組織委員会では東京都と協同して、大会後に各地にレガシー（遺産）を残すことを目的に、全国の木材を活用し、後利用を図る「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」プロジェクトを進めました。結果、42事業協力者（63自治体）から提供された約4万本（約1,300㎡）のスギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツが使用され、和の空間が広がった施設（延べ床面積5,300㎡）となっています（4月に完成予定）。一般に流通している各地域の木材を様々な部位に使用し、設計段階から後利用の際に柔軟に対応できるよう構造、接合部材など様々な配慮がされています。使用された木材にはそれぞれに産地の焼き印が押され、一目でどの木材かがわかるようになっています。

ビレッジプラザでは、世界各国選手団の歓迎式典が行われるほか、花屋・雑貨店などの店舗、カフェ、メディアセンターなどが配置されることとなっています。大会終了後は解体の上、各自治体に返却され、公共施設等に活用されることとなっています。まだまだ先の話ではありますが、大会終了後、あなたのお住いの地域でこれらの木材を目にすることがあるかもしれません。

※ビレッジプラザは選手及び関係者のみが使用可能な施設で、一般の方はご利用にはなりません。